

観光レクリエーションパーソントリップ調査に関する研究

岩手大学工学部 〇正会員 赤谷 隆一
岩手大学工学部 正会員 安藤 昭

／はじめに

観光施設の利用とレクリエーション施設の利用動態には、トレードオフの関係にあることが望まれる。特にとりたてて重要な観光資源がない町村においては、レクリエーション施設の拡充という過程を経て、観光施設の充実へと次第に変化させるという視点が重要となろう。まず観光というものを考えるに際しては、その基礎ともいべきレクリエーション施設の利用動態を十分に把握していなければならない。

本研究は、まだ観光地と呼べるに至っていない紫波町において、レクリエーション施設に関しパーソントリップ調査を用いることにより、現在利用されているレクリエーション施設の動態をさぐることを目的とした。

2の調査対象、調査地域および回答者

調査対象、調査地域は当町内に散在するレクリエーション施設を主とし、それに日常使用されている施設を加えた37施設とした。回答者は当町内に居住する成人300人の男女である。

2)調査の方法

従来のパーソントリップ調査の手法にもとづくところが大きい。1日の行動を春夏秋冬の各季節に分類し、しかも、おのおのの1日のレクリエーション行動のみを尋ねた点が、一般のパーソントリップとは異なる。調査方法は郵便調査法で行なった。調査期間は、昭和57年/月/0日から20日までである。

3観光レクリエーションパーソントリップの分析結果および考察

春夏秋冬にわたる各季節の目的別/人当り平均トリップ数 表-1 目的別/人当り平均トリップ数

トリップ数を表-1に示す。表に示されるように、各施設がレクリエーションに利用される割合は春が最も高く、夏、秋、冬となるにつれ減少してくる。これは紫波町内に散在している各施設の殆んどが屋外施設であり、冬になると積雪のためその利用が困難になるからだと考えられる。スポーツのための利用は、夏、秋が高い値を示している。各季節とも若干ではあるが勉学に利用している点に注目したい。

自動車、保有、非保有者目的別/人当り平均トリップ数による、保有、非保有者の有意差は検定によると、春夏秋冬においてはなかったが、冬に有意差が認められた。

性、年齢別/人当り平均トリップ数

各季節とも15～29才代の平均トリップ数が、他の世代よりも上まわっている。反対に、40～49才代は平均トリップ数が極めて少ない。トリップ数の差はおのおのの年代の家族構成のちがいが原因かと思われる。

性別世帯規模別/人当り平均トリップ数

男女共に春夏秋冬を通じ、世帯構成員の増加にともない、平均トリップ数が増加している、これは一般のパーソントリップ調査の場合の、都市化にともない核家族化し平均トリップ数が増加していることと比較すれば、逆

	春	夏	秋	冬
自宅へ	0.673	0.673	0.620	0.613
勉学へ	0.047	0.050	0.033	0.027
買物	0.273	0.203	0.223	0.220
遊び	0.323	0.253	0.230	0.223
レクリエーション	0.423	0.373	0.257	0.180
スポーツ	0.087	0.190	0.110	0.090
食事	0.217	0.160	0.187	0.190
仕事	0.147	0.113	0.170	0.080
治療	0.000	0.013	0.003	0.013
散歩	0.063	0.093	0.067	0.030
私的利用	0.120	0.127	0.110	0.197
その他	0.130	0.087	0.140	0.217
全目的	2.503	2.337	2.150	2.097

の傾向を示しておつ興味深い結果である。

職業別目的別トリップ数

職業による分類であるが、紫波町の場合、農林漁業が他の職業と比較した場合圧倒的に多く、他の職業が少ないため、職業間の関係をおることはできないが、目的別トリップ数から考えれば、レクリエーション、遊び、スポーツがどの職業でも多くなっている。

着トリップ構成比

表-2に示されるように、各季節ともほぼ同じに利用されている施設は、志和稲荷神社、志和稲荷温泉などである。冬以外の季節によく利用されているのは、新山高原、山王海ダム、滝名川渓流、総合運動公園などである。春の利用が圧倒的なのは城山都市公園である。また主に冬利用される施設としては、妙法山スキー場、志賀利和気神社がある。

志和稲荷が各季節に利用されているのは、温泉が近くにあるため保養施設としてであろう。冬以外の利用の施設は、積雪により利用が困難になるためである。城山都市公園の場合は、春の桜の名所であるため、他の季節と比較して高い値を示したものである。また、冬の利用施設の志賀利和気神社は元朝まりのためと思われる。それにスキー場もよく使われていることが解る。また、その他にもレクリエーション施設として利用できる場所があるのだが、よく知られていないのか利用する人はごく少数である。また、娯楽施設の利用も他の季節に比較し、冬が高い値を示すのも町内に冬に利用のできる施設が少ないためであろう。

発着トリップ構成比

図-1に各施設の結びつきを示す。志和稲荷神社-志和稲荷温泉-滝名川渓流-山王海ダムの各施設間の結びつきが強い。しかしこの区間の道路状態は悪いという結果が出てきていることから、この施設の利用を推進していくには、道路ならびに周辺地域の整備が重要な問題となってくるであろう。

以上の結果から都市部にレクリエーション施設が少なく、神社は利用されていないのが解る。

4おわりに

本研究でレクリエーション施設の利用動向の解析に、パーソントリップ調査を導入し、その知見を得たが最初の試みでもあり、改善すべき点が多くあり、より一層の検討が必要とされている。

表-2 着トリップ構成比

	春	夏	秋	冬
東根山	.0054	.0057	.0032	.0033
山王海ダム	.0283	.0347	.0143	.0016
滝名川渓流	.0054	.0087	.0048	.0016
新山高原	.0202	.0202	.0349	0
妙法山スキー場	.0013	0	.0016	.0081
折壁峠	.0067	.0072	.0095	0
漆立占墳群	.0013	0	.0032	0
船久保洞窟	.0013	.0072	.0032	0
是信坊の墓	0	0	.0032	0
野村樹聖の墓	0	.0014	.0032	0
岩谷観音	0	.0029	0	0
極楽寺野殿	0	.0043	0	.0016
正覚寺	0	0	.0048	0
志和稲荷神社	.0350	.0202	.0254	.0423
志和稲荷温泉	.0148	.0116	.0159	.0261
山王尾根跡	0	0	0	0
大沢森冬仏剎跡	0	0	0	0
洋梨畑田地	.0013	.0029	.0032	0
赤いふくろ田地	.0013	.0029	.0079	.0016
古館つんご田地	.0013	0	.0016	0
陣ヶ岡史跡	.0027	.0029	.0127	.0016
勝源院	0	.0043	.0016	0
十一面観音立像	0	.0014	.0048	0
志賀利和気神社	.0013	.0014	.0016	.0130
竹駒稲荷神社	.0013	0	.0063	0
城山都市公園	.0876	.0202	.0079	.0049
総合運動公園	.0283	.0564	.0365	.0065
町営自転車競技場	0	.0029	.0063	0
県立養魚場	0	.0014	.0032	0
住宅	.3760	.3815	.3889	.3746
交通施設	.0216	.0144	.0159	.0147
飲食店	.0674	.0535	.0730	.0635
商店デパート	.0795	.0723	.0794	.0879
娯楽施設	.0296	.0116	.0254	.0570
文化施設	.0162	.0202	.0190	.0212
北上川	0	.0159	.0063	.0049
その他	.0364	.0809	.0555	.0749
	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000

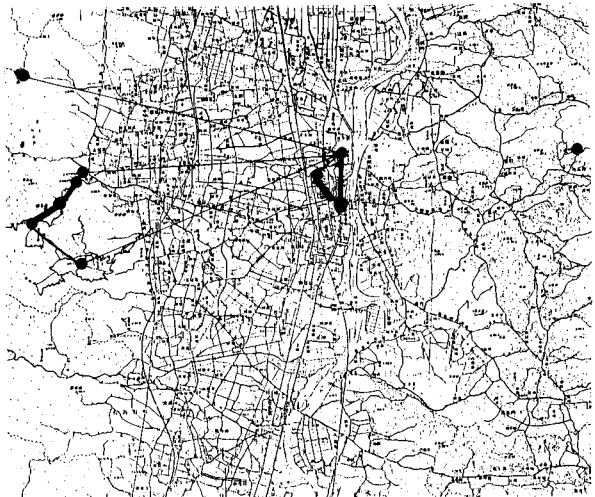


図-1 主なレクリエーション施設の位置と相互の関連